

9.27

交通安全の願いを込めて！

豊滝小学校の児童やPTAなど約120人が、通学路沿いの国道230号で、交通安全街頭啓発を行いました。学校で育てたジャガイモやニンジンに



交通安全を願う手紙を添え、ドライバーや同乗者に手渡しました。

▲「安全運転をお願いします」

9.25

フルート演奏への誘い

すみかわ地区センターで開催されたフルート演奏会。約80人の地域住民が、ゆったりとしたひとときを楽しみました。なじみのあるわらべ歌の演奏が始まると、一緒に口ずさむ来場者の姿も見られました。



▲優しい音色に、気持ちも和みました

10.9

秋の自然を満喫！

八剣山果樹園で行われた八剣山収穫祭。地元農家の「安心・安全」な野菜や果物を買求めたり、丸太切りや野菜当てゲームに参加する人たちににぎわいました。また、乗馬体験や熱気球フライトなどに子どもたちは大はしゃぎ。キノコ汁やジンギスカンも大人気でした。



▲これを切れば優勝だ！



▲お馬さん、ゆっくり歩いてね

見る・知る・遊ぶ

ふるさと⑱

上山鼻渡船場

南区を流れる豊平川。

ここには昔、真駒内と上山鼻（現藻岩下）を渡し舟で結ぶ渡船場がありました。

明治初期、開拓使長官黒田清隆は、札幌の街へ石材を運ぶため、山鼻から真駒内を経て石山まで続く直線馬車道（現在の国道230号石山通）を開設。明治九年には豊平川に渡船場を設置し、舟で馬や石材を運んだのが始まりです。場所は現在の藻岩橋の少し下流で、川を隔てた藻岩下側のみゆき通り（南三十三条西十丁目～南三十五条西十丁目付近）と、真駒内側の国道453号を結ぶ辺りでした。明治四十二年、山鼻～石山間に馬車鉄道が開通し、渡し



▲『南区開拓夜話』より（和田終太郎画）



▲渡船場跡（藻岩橋真駒内側のたもと）

舟は馬や石材よりも市街へ向かう人々に利用されるようになり、大正に入ると、渡船場は洪水の影響により、川の上流（現在の藻岩上の橋の付近）へと移りました。対岸に向かって「オーイ」と渡し舟を呼ぶ声、両岸に張り渡したロープを頼りに長い竿を操りながら往復する渡し守……。こうした風情ある光景は、昭和九年、鉄筋コンクリートの橋（現在の藻岩上の橋の前身）ができたことにより、姿を消すこととなったのです。現在、川辺に公園やサイクリングロードなどが整備された豊平川。かつての渡し舟の面影は残っていませんが、藻岩橋と藻岩上の橋のたもとには、史跡標柱が建てられており、ここに渡船場があったことを物語っています。

